

（東京都千代田区、米原稔一社長、03・3254・3221）は、高い強度ながら軽さと反発性を持たせた樹脂複合材「SRP（自己強化プラスチックシート」事業を粘着テープに次ぐ第2の柱に育てる。リーガルコーポレーション（千葉県浦安市）が紳士・婦人靴の中底に採用したのを機に、運動靴やキャリーバックへの展開を加速する。介護資材や物流コンテナ向けも開拓し、2018年に3億円規模の事業にする。

自己強化プラスチック
製の中底

SRPシートは融点が異なるポリプロピレン（PP）で形成した延伸テープ（フラットヤーン）を布状に織り込み、複数枚を積層することで融点が低い表層のPPのみを溶解させ、さらに圧縮・冷却して接着する。PPの中底に比べて約14%軽く、水に浮く。弓なりにしなるほか、低温環境でも高い衝撃性と剛性を持たせた。他の材料が混在しないため、リサイクルも容易だ。

中底に比べて約14%軽く、水に浮く。弓なりにしなるほか、低温環境でも高い衝撃性と剛性を持たせた。他の材料が混在しないため、リサイクルも容易だ。

同社は粘着テープを中心とした工事現場で使う養生シートやビニールハラス用資材、人工芝などを手がける。16年3月期の売上高は約10億円の見通し。

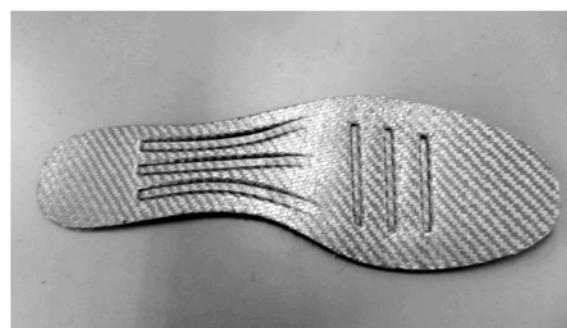


フラットヤーンの生産現場

ダイヤテックス

樹脂複合材、第2の柱に

運動靴など向け展開加速



ダイヤテックスが富山大学と共に同様に中底に使った場合の性能試験を実施したところ、PPや圧縮パルプ、なめし革など従来の材料に比べて反発性が強いため、踏み込んでから地面上を離れるまでの時間も大きくなるため、正規の姿勢での歩行を促す効果が期待できるという。熱による成形や

リーガルは紳士靴のソール（底）部材にダイセル・エボニック（東京都新宿区）の樹脂複合フィルムも採用